

内閣府本府政策評価有識者懇談会（第 63 回）議事要旨

1. 日 時 令和 8 年 7 月 22 日（水）13:59～15:49

2. 場 所 オンライン（Microsoft Teams）

3. 出 席 者

（委員）

座長	白石 小百合	横浜市立大学国際商学部教授
	荒見 玲子	名古屋大学大学院法学研究科教授
	伊藤 正次	東京都立大学法学部、大学院法学政治学研究科教授
	小野 達也	追手門学院大学地域創造学部教授
	櫻井 彩乃	一般社団法人 GENCOURAGE 代表理事
	佐藤 徹	高崎経済大学地域政策学部、大学院地域政策研究科教授
	佐藤 主光	一橋大学経済学研究科教授

（内閣府）

廣瀬 健司	内閣府大臣官房政策立案総括審議官
石川 亨	内閣府大臣官房政策評価広報課長

4. 議題

令和 8 年度を事後評価書の対象期間の初年度とする施策に係るロジックモデル（地域経済活性化、交通安全、就職氷河期世代等支援、男女共同参画、科学技術・イノベーション）（案）について

5. 議事要旨

○ 議題

令和 8 年度を事後評価書の対象期間の初年度とする施策に係るロジックモデルに関し、各部局（地域経済活性化、交通安全、就職氷河期世代等支援、男女共同参画、科学技術・イノベーション）からヒアリングを実施。委員からの主な意見やコメントは以下のとおり。

《地域経済活性化に関する施策の推進》

- 有用な経営資源を有しながら要するに債務を抱えている地域の核となるような中小企業が支援対象となっているが、どのような基準で有用な経営資源を判断しているのかご教示いただきたい。（佐藤主光委員）
- 事業の新陳代謝について、単なる廃業は支援の対象とならないのか。（佐藤主光委員）
- 地域の面的な再生と中目標にあるが、企業の支援はどうしても個々の企業に対する支援になるところ、どのように面的な再生を行うのか、個々の企業の支援がどのような形で面的な広がりを持つというところ、そこはどう担保されているのか。（佐藤主光委員）
- 測定指標④の「再チャレンジ支援実績のない空白地域の割合」について、目標値の設定にあたり、後々評価をするときのことを考えてボトルネック分析ができるようにこの辺りは少し丁寧に整理したほうがよい。（佐藤徹委員）

《交通安全基本計画の作成・推進》

- アウトプットの欄の指標に「参加者数」の設定が3つあるが、参考指標と設定しているものと設定していないものの整理が必要ではないか。（佐藤徹委員）

《就職氷河期世代等に対する支援の推進》

- アウトカムの評価は地方レベルで実施する事業の KPI とも整合性があるのか。（佐藤主光委員）
- この事業を活用したときにそれが本当に就労促進につながったのかどうかをどう検証するのか。この検証については地方自治体に任せているのか、それとも国の方でガイドラインを作っているのか。経済の状況によって、就業の機会は変わってくるところ、どのような形で事業の効果を識別しているのか。（佐藤主光委員）
- 内閣府として地方自治体の活動に対するモニタリングや優良事例の抽出などはやらないのか。（佐藤主光委員）
- アウトプットの測定指標について事業数が増えていく、あるいは地方公共団体の数が増えていけばいくほどいいという話になるかもしれないが、事業の数が増えたり地方公共団体の数が増えたりすると個々の事業はすごく小粒になっていくため、それが本当に最終的なアウトカムにつながるのかどうかということは絶えず検証していく必要があるのではないか。（伊藤委

員)

- 就職氷河期世代とは具体的にどこの世代を指すのかについて記載いただきたい。(小野委員)
- 各測定指標において、どの年齢層を対象に測定するのか等記載いただきたい。(小野委員)
- 測定指標⑦を「内閣府『孤独・孤立の実態把握に関する全国調査』における、頼れる人がいないと回答した割合」としているが、「社会参加している数」などではなくあえて比較的主観的な部分をアウトカムとして設定した理由をご教示いただきたい。(荒見委員)
- 氷河期世代等支援に孤独対策としての要素を残すのであれば、アウトプットにもそういった要素も含める必要があるのではないか(荒見委員)

《男女共同参画基本計画の作成・推進》

- 以前アウトカム指標として設定していた「地域における10代、20代女性の人口に対する転出超過数の割合」が今回設定されていないが、その指標を設定しないのであれば、この部分の成果をどのようにして今後進捗管理あるいは評価していくのか。代替的な指標を1つでも設定しないとなかなか評価しようがないのではないか。(佐藤徹委員)
- アウトプットの「えるぼし認定等の取得促進」の参考指標として「加点点評価の取組実施状況」を設定しているが、直接的な結果は「えるぼし認定を受けた企業の数」で測ることができるのではないかと。(小野委員)
- 測定指標①で「候補者(国会議員・地方選挙)に占める女性割合」としているが、投票行動で有権者もジェンダーバイアスがあるというのは日本のデータでも割と出てきていることを踏まえ、測定指標②や③と同様に「国会議員における女性の割合」のほうがいいのではないかと。(荒見委員)

《科学技術・イノベーション基本計画の策定・推進》

- アウトプットのところでむしろ実装に関する評価をしている一方、アウトカムのところでむしろ特許出願数及び論文出版数を測定することとしているが、この流れは逆ではないかと。(伊藤委員)
- 原子力委員会の活動として入学者数を増やすような取組があるのかご教示いただきたい。(伊藤委員)
- アウトカムの「社会実装の加速」の測定指標として以前は「追跡評価WGでの評価」を設定していたが、今回なぜ設定していないのか。(佐藤徹

委員)

- 政府が成長戦略においてフィジカル AI も含めてかなりイノベーションにも力を入れているなかで、今の政府の成長戦略に沿った最終アウトカムを設定しなくていいのか。(佐藤主光委員)
- 原子力の関係では、エネルギーの安定供給等は喫緊の課題になっており、そのために国民の理解が必要となるということだと思うが、それを踏まえると、最終的なインパクトは「エネルギーの安定供給」になるのではないか(佐藤主光委員)

<文責：内閣府大臣官房政策評価広報課>